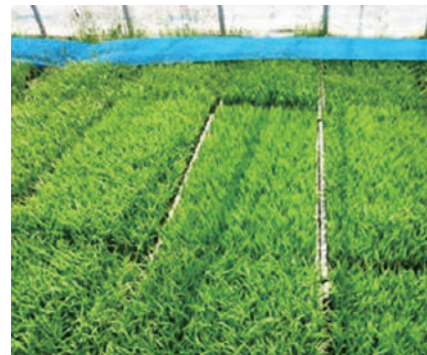


# 水稲育苗用ロックウールマットの効果確認

JA北いしかり

稲村 政光



草丈が短かった箱(試験区)



発芽率が悪く?土が見える箱(試験区)



慣行区の様子

## 試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認

## 試験作物 及び品種

水稲(おぼろづき)

## 試験資材 及び数量(規格)

クミアイこめパワーマット

## 慣行資材

パールマットK

## 栽培方法

播種日	定植日
4月27日	5月29日
【栽植密度】 マット1枚 250粒播種	

## 資材使用期間

4月27日~5月29日

## 試験区面積

1000枚

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

慣行培土と比べて軽量による作業性は実感できた。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ・播種後22日の時点では、試験区で草丈にばらつきが見られた。
- ・試験区では特に草丈が短い箱が散見された。
- ・播種時の灌水は、目安の2Lよりも少なかったことが考えられる。
- ・今年は春先に高温干ばつが続き、高温障害を受けやすい環境であったため、こめパワーマットの特性からすると、育苗中も慣行区より灌水量を増やす必要があった可能性がある。
- ・その後、液肥を施用することで生育を促し、移植することができた。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：軽量からくる作業性・省力性

【問題点】：慣行培土との水管理の違い

## モニター感想

軽量からくる作業性については実感したが、灌水など育苗作業は既存の培土と異なる点があり、その対応を含めて考えると既存の培土のほうが使用しやすい。

## JA担当者の感想(生産資材課 中山課長)

生産者の高齢化に伴い、作業負担軽減はコスト低減と同様に重要な課題であり、クミアイこめパワーマットは播種作業からの苗箱を取り扱う場面で作業負担の軽減が期待される。また、必要となる枚数がはつきりするとはメリットと考える。

今回、播種時および育苗時の灌水不足が原因と考えられる生育不良が発生したことから、新たに使用を始める生産者には、使用方法を十分理解してもらうための対策が必要と感じた。

今後の普及については、播種行程の灌水方法によっては、慣行よりも作業効率が劣ることが想定されることなど、生産者の作業状態に合わせて省力効果について十分に検討し判断することが必要と考える。

## 今後の使用について

改良して欲しい。  
クミアイこめパワーマットがすじまきに対応していれば使いやすいと思う。

## 将来希望する資材について

マットに限らず、省力的な資材は関心が高い。

1 クリント

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 生分解性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 その他